



『海禅寺新聞』第44号

早いもので令和6年も年の瀬を迎えます。皆様にとつて今年は何のような一年でしたでしょうか。社会に目を向けると激動の一年だとも言えますが、しかし春夏秋冬と無事季節は巡り、こうして年末を迎えることができている。いずれにしても、私たち自身が、自分の目の前に見える出来事をどう意味づけするかが、その味わいとつて大切な要素です。インターネットを見ていたら、次のような言葉に出会いました。

- ある人は22歳で卒業したが
良い仕事に就くまで5年かかった
- ある人は25歳で社長になったが
50歳でこの世を去った
- 一方50歳で社長になり
90歳まで生きた人もいる
- ある人はまだ独身だが
学生時代の友人の中には
既に孫がいる者もいる
- オバマは55歳で引退し
トランプは70歳で大統領になった
- この世界の誰もが
自身のタイムゾーンに基づいて生きている
- 周りの人は君より進んでいるように見える
かもしれないし
- 一部の人は君より遅れているように見える

かもしれない
誰もが自分のレースを走っている
しかし
それだけなんだ

他人を羨む必要はない

彼らは彼らのタイムゾーンにいて

君は君のタイムゾーンにいてただ

だから

慌てなくていい

君は遅れていないし

君に合った時間を生きているんだ

私たちはついつい自分と人とを比べて
しまいがちです。しかしその結果、安心
したり不安になったり繰り返す。仏教
では自分を自分で相対評価の渦に飲み込
まれないよう、ありのままに見つめてい
く大切さを説いています。

また、あの有名な理論物理学者、アイ
ンシュタインは次のような言葉を残して
います。
人生には2通りの生き方しかない。

ひとつは、

奇跡など何も起こらないと思つて

生きること。

もうひとつは、

あらゆるものを奇跡だと思つて
生きること。

生きていると人様の自分への評価は確
かに気になるものですが、気にしすぎて
生きづらくなつてしまつては悲しい事だ
すね。どうぞ一年の結びに、今年の自分

自身を無条件に讃え、心を整えて新しい
年を清々しい気持ちで迎えたいものです。
皆様の菩提寺海禅寺としましても、皆
様の新しい一年がよりよい毎日でありま
すよう、日々お祈り申し上げております。



『初祈願お申込み』を送付

新年恒例となつております『初祈願大
護摩祈禱札のお申込み』を同封いたしま
した。

海禅寺の不動堂にて、ご本尊不動明王
の御前で勤める護摩祈禱にてお加持をし
た護摩札をお授けいたします。

- 日 程 新年1月2日(木) 祝日
- 時 間 祈禱 午前10時

※お堂にお入りの方は10時40分頃、
御札をお渡しできます

- ・御札渡し 午前11時〜午後5時
- ・御札郵送 3日発送



●初祈願ご祈禱札をご希望の方は、12月
29日(日)までに、同封の『初祈願御
申込御芳名帳』にてお申込みください。
ファックスでも可 Fax: 0268-26-1147

●新設のフォームより
お申込みも可能です。
下記QRコードをス
マートフォンで読み
込んでご入力ください



・当日お堂にお入りにならないお申し
込みの方々にはご祈禱後、午前11時
よりご祈禱札をお渡しできます(当日
は夕刻5時まで)。お申込みの方はご都
合のよい時間に合わせてお寺にご参
拝いただいても結構です。

・祈禱札の郵送もいたします。(送料500円)。
ご希望の方は申込書に明記ください。
・護摩祈禱会終了後、ご希望の方はご
歓談いただけるようにお茶の準備を
いたします。お時間許す方は茶話会
にご参加ください。(お集まりの方の中
でご希望があれば、不動尊にお供えした
御神酒をお下げて一献やりましょう)

修正会

新年最初の法要である修正会。新しい
年が皆様にとつてよりよい一年でありま
すように御祈念いたします。

海禅寺では年が明けた深夜0時より、
本堂・不動堂・聖天堂でお勤めをしてお
ります。

ご参拝希望の方はお堂の外からですが、
どうぞご自由にお参りください。(申込不要)

- 日 時 新年1月1日
午前0時〜1時過ぎまで

※本堂・住職が各家ご先祖の回向法要を勤修
不動堂・聖天堂・副住職が祈願法要を勤修
※右記の時間以外でも一日は開門しています。

『生きる力 vol.1-9』送付

真言宗智山派で檀信徒の皆様へ向けて発行している季刊誌をお送りします。

今回の特集は『「生きる力」とお大師さま ―ご縁を授かり、仏さまとともに生きてゆく―』です。ぜひ年末年始の一時、お読みいただけましたら幸いです。

報告 人形供養会 無事勤修

恒例の人形供養会を、去る11月23日（勤労感謝の日）に勤修することができました。昭和60年から始め、コロナ禍期間中も含め、毎年欠かすことなくお勤めしてきました。本年は回を重ねること40回目の節目の年となりました。

今年も県内外から供養を希望するたくさんのお人形が集まりました。当日は海禅寺とご縁のある僧侶方に多数ご出仕いただき、お人形達に感謝の誠を捧げる供養会をお勤め致しました。

本堂前に整えられた大きな祭壇と本堂縁側に、最後の晴れ舞台として、お預かりしたお人形さんたちをすべてお飾りします。これまで各家で果たしてきたお役目の労に感謝し、柴燈護摩の供養法をもって、御礼の宴を催す心持ちでお勤めいたしました。護摩壇から立ち上る煙はお人形たちを包み、大きな炎がその御霊を乗せて天へ、そして大きな世界お送りしているようでした。

お人形との別れに涙を流しながら手を合わせる方もおられました。お人形の存在の背後に、たくさんのお人形の思い出と託す深い想いがあるのでしょうか。人形供養会には芙蓉園とガールスカウトとのご縁から、多くのお子さん達もお参りに訪れます。



本堂前の柴燈護摩道場。そして多くの供養者の皆様に見守られ、誇らしげに居並ぶお人形さんたちの姿が印象的でした。

この供養会で共に手を合わせたことが、彼ら彼女たちの人生にとって、大切な温もりとなつて宿つてくれたらと願います。今、社会はあらゆるものが効率化されていく傾向にあります。しかしそういった方向性とは対極にある、こうした祈りと感謝の時間は、今のようない時代だからこそ、よりその意義が深いものになってきているように感じています。

★来年の人形供養会について

日時：令和7年11月23日（勤労感謝の日）
事前申込：2月3日（節分）以降随時

※12月・1月は年末年始の繁忙期につき、春の節分以降に事前のお預かりを始めます。

副住職の気まぐれ法話

ロウソクの灯りに思う



ロウソクの灯火には、心が安らぐ不思議な力があるように思います。

海禅寺の平日は、早朝から体調不良などで芙蓉園を欠席するお子様の電話連絡が、保護者の方から入ります。一日の中で特に慌ただしい朝の時間帯ですが、どんなに忙しくとも、私はロウソクに火を灯し、浄水を仏前にお供えしてしばしお勤めをすることは欠かさないようにしています。神仏に祈ることは勿論ですが、ロウソクの灯りは、そんな気ぜわしい私の心を和らげてくれる存在です。

仏教では燈明を供えることは、般若波羅蜜（はんにゃはらみつ）と言つて、智慧を研ぎ澄ます修行をすることであるとされています。周囲が暗くとも、あたりがあれば私たちは物を目で見ることができません。電気が便利に使える今では、心底実感することは難しいことですが、電気のない時代、灯りは大変に貴重で有り難いものだったそうです。

暗闇の中であっても、足元と進む先を照らす灯火によって、私たちは歩みを進めることができます。古の仏教者たちは、この灯りの力を、お釈迦様の教え（法）に喩えました。燈明が私たちの進む方向を教え示して照らすごとく、仏の教え

は、一切の真実を明らかにし、その理解を促してくれます。そうして私たちに至福をもたらせてくれるのが、仏教であると捉えたのです。

ところで芙蓉園では毎月、お誕生日のお子様たちをお祝いする、「お誕生会」を開いています。集いの最後に、誕生月の年長児のお子様たちが、一人一本火を灯します。そして皆でその炎を、静寂の中で見つめる一時を過ごしています。ロウソクの火は、子ども達に何を語りかけているのでしょうか。毎月この光景を傍らで見ているのですが、私は智慧の光を皆で味わう時間のようにも感じています。



お釈迦様はお亡くなりになる前、弟子たちに「自燈明 法燈明」の教えを説いたと言われています。「自らを灯火とし、自らを抛り所としなさい。仏法を灯火とし、抛り所としなさい。」というものです。「自らを灯火とする」とは、自分と向き合うことです。人任せの人生、物欲に心奪われる人生への戒めでしょう。自分の人生は自分自身で歩むもの、誰も代わってはいけません。「仏法を灯火とする」とは、「法のかなめは心を修めること」と説かれてるように、仏教の考え方を抛り所に、常に自分の心を観察して、正しい在りようを見定めていくことです。

年の瀬、皆様も日々お忙しくお過ごしかと存じます。そうした中ですが一時、ぜひロウソクの火を見つめ、ご自己を見つめてみてください。

